

2010 Student Campus President

活動報告



1. 総括

3期 SCP は「SCP の存在を学内・学外により広めよう」をテーマとし、さらに SCP の基盤である「より良い大学作り」の双方を目指し活動してきた。

今期実施したプロジェクトおよび活動については以下の通りである。

【初代および二期 SCP からの継続業務】

- ・食堂改善
- ・大学ブランド商品開発
- ・オープンキャンパス、卒業式、入学式、九十九祭などへの参加
- ・SCP 掲示板、SCP ホームページによる活動報告
- ・禁止薬物乱用対策
- ・地域交流プロジェクト

【今期より立ち上げた活動】

- ・学内学習環境向上プロジェクト
- ・東北地方太平洋沖地震被災者のための震災支援活動、および防災への意識向上活動
- ・新入生応援活動
- ・丸善改革
- ・大学ノーマライゼーション
- ・他大学学生とのつながり
- ・SCP サポーター募集
- ・九十九祭でのイベント実施

今期は昨年度までの反省を生かし、SCP 一人に対し学生から募集したサポーターの協力を得ることで活動の効率化を目指し、より多くのプロジェクトに取りかかれるよう活動した。しかし、効果が出たものとそうでなかつたものに分かれる結果となった。

成果を得られたプロジェクトは、学生支援課や学生サポーターおよび先代 SCP からの協力により上手く連携できたことが要因となっていると感じた。また、今期 SCP は SCP およびサポーター内での話し合いを昨年よりも多く設けたことで活発な意見交換が行えたこと、情報を互いに共有し協力しあえたことが成果につながったと思える。

対してプロジェクト進行がままならなかつた事案については、サポーターがいない学部・学科があつたことや学生のモラルの問題から活動に支障が出たものなどがあり、また例年と同じく学業と同時に複数のプロジェクトを進行させることが難しく、1年間という短い期間では当初の目標に到達することが困難だった。

今後 SCP が更なる発展を遂げるためには、活動の引き継ぎをまずきちんと行うために後の SCP 活動の流れを作れるようマニュアルを作成し、過去の SCP による積極的なバックアップも必要になると考えられる。また、授業時間が学部学年により異なるため、毎週金曜日は全学部 4限終了といった講義カリキュラムによる協力を先生方事務職員の皆様にお願いすることで活動をしやすいようにしていただきたい。

2. 2010 年度 SCP について

A) 構成員

薬学部 2 年 森 数馬

歯学部 2 年 伊藤 祐香

看護福祉学部 2 年 伊藤 展佳

心理科学部 3 年 工藤 真里

B) SCP 会議

開催：全 15 回

目的：プロジェクトの立案・企画

各プロジェクトの進行状況報告、意見交換など

出席者：現 SCP および先代 SCP、学生支援課職員、SCP サポーターなど

C) 反省点

薬 SCP 就任が遅かったこともあり、三期 SCP 全体で活動のスタートが出遅れてしまった点が後のスケジュール調整にも影響したと考えられる。会議は昨年に比べれば多く開けたもののテスト前や長期休みにおいて集まりが悪くなり、会議を開きたくても開けず活動に支障をきたす部分もあった。また、アルバイトやサークル活動、就職活動などにより思うように SCP 内での連携が取れないこともままあった。

D) 改善策

・スタートをしっかりと。

後任が決まらない学部がある場合でも二名ほど新規 SCP が決まれば行動は可能なので引き継ぎの活動をまず進めていくべきだと考える。この際、後任の決まった学部の SCP が指導役、まとめ役を務め、決まらなかった学部の SCP が早急に後任探しを教職員と連携して行う必要があると考える。

・スケジュール管理

年間の予定がわからないまま三期 SCP は活動をしたためスケジュールの管理が思うようにできず、連携が取りにくいことが多々あった。とくに長期休み時の活動に旅行や実家帰省などで調整が困難となり活動がうまくいかなかつた。改善策として年間のスケジュールの引き継ぎをしっかりとやるべきと判断し、三期の年間活動報告(別紙参照)を作成することとし、予定作りをしやすいようにした。

3. 各プロジェクトについて

I. 初代・二期 SCP より引き継いだ活動について

①禁止薬物乱用対策

メイン担当 齒二期 SCP

昨今の大学生の麻薬乱用を受けて、学生自身が麻薬について啓発活動を行うことで麻薬薬物使用の根絶を目指した。

1) 「薬物乱用防止キャンペーン」への参加について

目的：北海道医療大学における学生の禁止薬物に対する防止活動の成果を学外で発表し、周知してもらう。

【イベントについて】

主催：札幌薬剤師会、AIR-G 共催

場所：札幌ファクトリー

日時：2010年3月21日

メイン担当；歯 SCP(第二期)

イベント当日参加者；薬 SCP(一期、二期、三期) 看護福祉 SCP(三期)、心理科学 SCP(一期)

事前準備参加者；心理 SCP(三期)、歯学 SCP(二期、三期)

成果：イベントが震災直後だったこともあり放射能に関する掲示をする団体もあるなか、あくまで薬物乱用の危険性についての啓発活動を行った。昨年に続く二回目の参加だったが SCP の周知効果も期待でき、クイズを通して子供たちや親に薬物の危険や怖さを伝えるようにした。さらにイベント開催に携わる学外の方との交流を通じて学生の自主性を育てる良い機会になり得た。

2) 禁止薬物に対する啓発活動

目的：ポスター・ラジオによる禁止薬物使用への危険の啓発

結果：SCP 掲示板にて掲示したところ何人かの学生が足を止めて見ているようだった。

また、ラジオによる啓発活動を看護福祉と心理科学 SCP が行った。

自己評価

イベントの準備期間が後期のテスト日程と重なったことや開催日が春休みだったこともあり、SCP 内での連携が思うように取れず、あまり満足できる成果とはならなかった。また、本学の学生が当イベントに来るということがあまり見かけられず、イベント実施の告知活動の強化を今後の課題としたい。また、ステージイベントについてもう少し歩いている人が思わず足を止め聞き見してくれるような発表を目指す必要も感じた。

②食堂改善プロジェクト

概要

今期は各 SCP が食堂一つずつをメインに担当し、食堂業者との意見を交換しながらより良い食堂提供を目指した。

成果

食堂	担当 SCP	活動内容
中央食堂・二十周年食堂	歯、看護福祉	<ul style="list-style-type: none">QR コード利用によるサービスの周知活動利用アンケートの実施
ビストロスマイル食堂	薬	<ul style="list-style-type: none">あいの里食堂と同時開催、限定「スープカレー」の提供新入生への案内用仕切りの設置混雑解消のためのスタンプサービスの開始
あいの里キャンパス食堂	心理	<ul style="list-style-type: none">フェアの開催意見交換ボード新メニューの提案
全食堂共通事項	全 SCP	新入生向けの食堂案内チラシの作製、配布

問題点

全食堂共通事項

- 食堂業者に連絡するも日程が合わず、プロジェクトの進行に支障を来たすことがあった。
- 野菜や油などの材料費の高騰や食堂の人材不足などがあり学生の望みを満たせない部分もあった。

あいの里食堂

- 食堂を改装したかったが見積もりを立てられなかった。

自己評価

SCP に就任してから業者さんと会うまで少し時間がかかってしまったため、行動が遅めになってしまった。早くから動いていればできたであろう点(新メニューの企画など)もあったのが反省点である。

成果としてはビストロにてスタンプサービスの提供により混雑解消を図ったこと、中央＆二十周年食堂にてアンケートを実施し、解決案を大学に提案したことが挙げられる。あいの里レストランでは設置した意見交換ボードが効果的で業者との協議をスムーズに行うことができた。また、利用者へ還元することにより高評価を得ている。今後、新メニュー導入への取り組みからビストロで人気の揚げをあいの里キャンパスでも実施することとなった。

学生の意見を業者側に伝える重要性は今後も同様なので、今後の SCP にも継続して様々なアイデアを出し、積極的に取り組んでほしい。

③その他の引き継ぎプロジェクト

1)SCP掲示板 メイン担当 看護福祉 SCP→薬 SCP

活動内容

SCP活動の報告など、学生への通達事項を掲示するために第二期よりSCP室前に設置した。

今年度はJRとふれあいバスの時刻表を掲示することでより多くの人に見てもらえるよう工夫し、震災時の対策とし避難地図の掲示や応急処置の仕方など社会に応じた掲示を心掛けて行った。

また、学生からの意見箱も設置し、SCP活動への要望として学生と教職員とをつなぐパイプの役目も果たしたが、今年は投書が少なかった。

自己評価

投書が少なかった原因としてこちらの返答が遅かったことがあげられる。途中でメイン担当を薬SCPに変え、様々な工夫を行ってみたが一度減った投書を戻すにはそれなりのインパクトのあることが必要のようだった。学生と教職員を結ぶ貴重なパイプであるため、第四期SCPにはしっかりととした対応を行っていって欲しい。

2)SCPホームページの運営 メイン担当 薬 SCP

概要、活動内容

SCP活動を学内・学外へ広げようと二期SCPが立ち上げたHPを利用し、イベントの告知や活動状況の報告などに用いた。

自己評価

更新をまめに行うことが難しかったため閲覧者が少なく、よりHPの存在を周知する必要があるようを感じた。そのためにはパソコンの知識が必要だが今期SCPには精通した者がおらず勉強する時間もなかったためアクセス数増加のためのアイデアが浮かんでこなかった。次期SCPにアイデアをお願いする形で引き継ぎたい。

3)在学生代表としての活動

i)オープンキャンパス参加 全SCP

2010年度第3回(9/27)、2011年度第2~5回に参加し、各々のプロジェクトについて参加者へ説明した。また、薬SCPは学部別スケジュールの企画および当日の学生スタッフ代表としても活動した。

ii)卒業式・入学式への参加

今期は学長のアイデアにより来賓入場時にSCPが誘導する企画を行い、卒業式では看護福祉SCPが在学生代表として答辞を行った。

卒業式参加：薬SCP一期・三期、歯SCP一期、看護福祉SCP一期(卒業)・三期

心理科学SCP一期(卒業)・三期

入学式参加：薬SCP三期、看護福祉学部SCP三期

iii)大学基準協会への参加

2010年において第?回目の大学基準協会さんとの会合に参加し、学生の視点からの発言を行うなど、上級生、同級生、下級生の「声」を真摯に受け止め、今後のSCP活動に生かす材料とした。

参加者：薬 SCP二期・三期

iv)新聞記者への対応

成人時：歯 SCP

震災時：薬 SCP

大学としての震災への対応について、北海道新聞のインタビューに応じた。

4)地域交流プロジェクト

i)当別阿蘇雪広場雪祭り企画・参加 担当 看護福祉 SCP

概要・活動内容

雪祭り日時：2011年2月11日(金)・12日(土)

毎年、当別町で行われている雪祭りだが医療大学の学生の参入がなかった。そこで、大学の学生支援課課長から声がかかり雪祭りへの企画、当日の参加が決定した。

当別町役場での第1回～第4回の阿蘇雪祭り企画会議に出席し企画案を出した。

企画案

- ・子供たちをターゲットとしたクイズ大会
- ・宝探しゲーム

景品として、当別町オープンサロンのクッキーやラスクの詰め合わせを100個用意するため当別町役場商工課から1万円の予算をいただき活動に用いた。

当日はボランティアとして医療大学生が、巨大滑り台の子供たちの補助や、イベントの用意や片付けの仕事をした(11日は学生が8人、12日は7人の有志の学生が参加)

自己評価

結果として、同学生が参入した雪祭りは成功に終わり、役場の商工課課長から次年度の企画・参加も是非やってくださいとのお声をいただいた。

ii)当別役場との交流 担当 薬 SCP、看護福祉 SCP

概要・活動内容

当別ブランデリ評価委員として、地元の畜農産物の加工品の評価委員会に出席し、評価した。

自己評価

日程調整がうまくできず、役場の方に迷惑をかけてしまうことがままあった。しかし、昼間は学生の本業があるためはじめから夕方に会議などを行う形でないとスムーズな協力は難しいと思う。本当に学生の協力が欲しいのであればはじめからわかっていることであるためするべきとも思う。

II 今期よりスタートしたプロジェクトについて

① 学習環境向上プロジェクト 担当 薬 SCP

概要

テスト前における図書館の混雑解消や蔵書の増加などの改善により学習環境を向上し、大学全体の学力アップを目指した。

活動内容

1)多型自習室の設置について

- ・静かな環境で集中して学べる環境を提供するため「私語厳禁」の個別ブースを置いた自習室を設置したいと考えた。しかし、講義室の不足のため設置の目途をたてるまで進めることはできなかった。
- ・プレゼン学習などにより他の学生と相談しながら学ぶことができる「グループ学習型」の自習室を設置したいと考えた。しかし、講義室の不足により設置の目途を立てるまで進めることはできなかった。

2)図書館利用の充実化

- ・図書館内に専門書が少なく、勉強しにくいという学生の声に応じて積極的に専門書の導入を図書館員へお願いし、学生の学力向上につなげようとした。図書館だけの問題ではなく大学全体として考える問題ということで支援課、入試広報課、管財課で協議していただくこととなった。
- ・図書館内での飲食問題と私語問題に対応してほしいという図書館からの要望を学生支援課職員に相談したところ、図書館出入り口近くにグループ学習用の机が設置され一部利用者から賛辞の声があった。また、4階の一部の大テーブルに仕切りをつける処置を行ってもらい、最近マナー不足が目立つ館内の私語削減を目指した。

3)講義環境の向上

①講義中の私語や無断退席など学生のモラル面の問題について

生徒間で注意を呼び掛けようとしたが、学生内でトラブルが起きるトラブルが生じたため効果はあまりなく、座席指定による解決策を取るしか現状は難しいと思われる。依然として学生のマナーが悪いという話があるので大学全体としての効果のある対策が今後ほしい。

②プリントの配布について

スライド資料のサイズが小さくて見えづらい、配布に時間がかかり過ぎている、配布してくれない科目があって困る、などの声があるので先生方に協力をお願いしたい。

反省点

学生のモラルや大学の講義室不足などの問題により、思うように行動できない面が多々あった。しかし、大学全入時代となった今日、手に職をつけようと受験生内では医療分野の人気が高まり、また社会からもニーズも高まっている現状において学習環境の向上は必要不可欠と考える。任期終了後もこのプロジェクトについては三期薬 SCP が中心となって携わり、目標の実現に向け、先生方、事務職員の方への積極的な協力をこの場を借りてお願いしたい。

② 「東北地方太平洋沖地震震災支援」プロジェクト メイン担当 薬 SCP

概要

2011年3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震による多大な被害が生じたことを機に、医療を学ぶ自分たちにできることはないか考え、募金行動を行うこととした。

また、震災から得た教訓を多くの方に広めることで一人でも被害者を少なくするため、防災に関する活動も行った。

活動内容

1) 学内募金箱の設置

実施期間；3/16～8/5(設置を継続してほしいという学生の声に応じて4月末の予定より延長)

設置場所；当別キャンパス内(学生支援課、教務課、丸善、モリタ、クリニック一階)

あいの里キャンパス(心理科学課、丸善、大学病院 1F、2F)

2) 学外での募金活動の実施

実施日；3/25～27

実施場所；ラルズマート当別駅前店店頭

参加者；薬 SCP、看護福祉 SCP、薬学部および臨床福祉学科の有志の学生

3) 学内での募金活動

実施日；4/4、6、11

実施場所；SCP 室前

参加者；薬・歯・看護福祉 SCP および薬学部の有志の学生

4) 九十九祭での募金活動

実施日；6/18、19

実施場所；九十九祭のインフォメーション前および歯科内科クリニック入口付近

参加者；全 SCP および大学祭実行委員

5) 災害時用対策パネルの展示

i) 避難場所の確認用展示パネルの設置

大学内にいる場合に大地震が起きた際、避難所がどこであるか事前に知っておく必要があるが、学生・教職員内で把握している者が少ないと感じたため SCP 用掲示板を利用し、周知を試みた。

ii) 九十九祭での災害関連のパネルを展示

大学祭を訪れた当別町の方々のための避難所の一覧や、震災が起こる前に知っておきたい予備知識について展示を行うことで、当別町との協力の元、防災意識の高まりを目指した。

6) 九十九祭での防災関連イベントの実施

i) 防災鞄を作ろう。担当 薬 SCP

非常時にすぐに待ち出せるよう防災鞄を一人一つ用意してもらうことで、この度の震災のように逃げ遅れによる被害者を防ぐことを目的とし講演した。参加者には模擬的に防災鞄を作ってもらう

ことで防災鞄の必要性について理解してもらい帰宅後に行っていただけるよう促した。

ii)歯科医師に求められる災害時の対応について 担当 歯 SCP

実際の活動写真のスライドを用いて、一般の方にもわかりやすく歯科医の災害時の支援活動を説明した。

iii)震災におけるボランティア活動と本学におけるボランティア活動について 担当 看護福祉 SCP
前半に実際に被災地に行った学生や、地元のボランティア活動の方に講演していただき、後半には参加者の方々との意見交流を行い、ボランティアについて考えた。

7) 山形大学での学生FDへの参加 第三期薬SCP、第四期心理科学SCP

9月3日に山形大学で行われた学生FDに参加した。議論のテーマは「東北地方太平洋沖大震災」に関してであった。

実際に被災された学生からの話も聞け、支援活動の継続の必要性や震災が起こる前の対処方法など、考えが広がる機会となった。第四期の活動につなげていってもらいたいと思う。

成果

震災支援への義援金が計82万7538円集まり、復興支援金として当別共同募金委員会を通じて被災者へ分配された。また、当別町内での募金活動において北海道新聞の3月26日(土)夕刊一面に活動内容が掲載されたこと、防災の意識を高めてもらうため当別町内の方々との交流を得たことでSCPの存在を広めようという今期のテーマを実現できた。さらに多くの方とのふれあいから学生が成長する良い機会を得ることができた。

③ 「新入生応援」プロジェクト

メイン担当 薬 SCP

概要

当別キャンパス内は迷路のような構造のため新入生が迷う傾向があった。そこで新入生が一日も早く大学に慣れてもらえるよう先輩からの大学紹介の掲示を行った。

活動

- ・丸善・モリタへの行き方案内地図の作成（歯 SCP）

地図を作製し、SCP 室前にて自由配布した。

- ・教務課、学生支援課の案内（看護福祉 SCP）

学生が関わることの多い教務課と学生支援課について、どういった業務を扱っているか説明の掲示を行った。

- ・ふれあいバスの利用法について（薬 SCP）

ふれあいバスは利用法が少しわかりにくいため、チケットの請求方法など利用法についてわかりやすく明記し、掲示した。

- ・SCP 便りの作成（薬 SCP）

SCP の紹介を綴ったチラシを作成、配布した。

成果

- ・モリタなどへの行き方がわからず困った学生が今年度は少し減ったように思えた。

- ・ふれあいバスの利用者が増大した。

④ 「大学ノーマライゼーション化」プロジェクト 担当 看護福祉 SCP

1)他大学の福祉への取り組みについて見学

活動内容

札幌学院大学との意見交流会日時：2011年2月5日(土)

場所：札幌学院大学内

まず、他大学を知る必要があると考えて、札幌学院大学の施設環境の見学に行った。

札幌学院大学は、障がいを持った学生でも勉強しやすい環境設計になっており、多くのハンディーキャップを持った学生が勉学に励んでいた。そこでは学生組織であるバリアフリー向上委員会が設置されており、障がいを持った学生に対して、学生たち自ら一丸となり学生一人ひとりのサポートをしていた。身体に障がいをもった学生には登下校の車椅子の介助、目や耳の不自由な学生には講義中手話で講義内容を伝えながら授業を行ったり、ノートを代理で書いたり等学生達が主体となって行っていた。私自身、ボランティアネットワークとしてまた SCP として意見交流会に参加し、学内環境に対してのアドバイスを得る機会となった。

自己評価

札幌学院大への訪問を経てアンケートを作成し、学生および教職員にノーマライゼーションに対しての意識を高めてもらおうと考えたが、アンケートをうまく作れずに終わってしまった。

2) オープンカレッジを多くの人に知ってもらう

概要

看護福祉 SCP が企画・運営に携わっているオープンカレッジについてより多くの方々に知ってもらえるよう周知行動を行った。

活動内容

・2010年度第3回オープンカレッジ(12月開催)

札幌学院大学の学生さんや札幌市の高校生にも参加していただき、当日の受講生のサポーターとしてついていただいた。計 38 名の受講生さんと 40 名の受講生サポーターが集まり、当日は多くの笑顔が見られ、受講生も楽しんで帰っていただくことができた。開会式では、医療大学副学長さんから挨拶をいただいた。

・2011年度第1回オープンカレッジ(5月29日開催)

当日、学長に開会式で挨拶をいただけたことになった。

自己評価

他大学や高校生への協力を得ることができた。しかし、薬学部や歯学部の学生に関しては、このオープンカレッジへの参加が得られていない現状である。まずは、SCP の皆さんにオープンカレッジを知ってもらうことを目標にやってきた。私たち運営側も、もっと大学内で周知に関してオープンカレッジに関してアピールしていかなくてはいけないと思った。

⑤ 「他大学学生とのつながり強化」プロジェクト メイン担当 心理科学 SCP 概要

他大学の学生と交流をとり、他大学との情報交換をすることで本学へのフィードバックを図る。

活動内容

i)FD 会議に参加

- ・8月 21 日(土)に札幌大学で催された学生 FD 会議に心理科学 S C P が参加した。
- ・9月 3 日(土)に山形大学で催された学生 F D会議に薬 S C P と第四期心理科学 SCP が参加した。

ii)他大学訪問

- ・2月中旬にかけて様々な大学にアポを取って訪問させていただき、本学との比較、改善に繋げようとした。そして、SCP の認知を他大学へ広めようとしたが実現できなかった。

反省点

熱意あふれる学生に触れ合えて意識が高まったが、会議後の繋がりがあまりもてていない。活動時間ももっと増やすべきだった。SCP で作成した名刺を就職活動で配りまわった。少しは SCP の存在を認知している人を増せたと考えられる(第三期心理科学 SCP)

山形大学で得たことをつなげる活動として地元(当別町)とのつながりを意識する機会となった。そこで地元のネットワークに参加するなどの活動を現在継続して行っているが、他大学とのつながりがなかなか難しいので第四期にお願いしたい(第三期薬 SCP)

⑥ 「SCP サポーター集まれ」プロジェクト

メイン担当 薬 SCP

概要

SCP 4名では考え方方に狭まりを感じたため、活動の補助としてアドバイスや手伝いをしていただいた。

活動内容

i)薬 SCP

同級生三名の協力を得て、プレゼン時のスライドの質の向上、話し方のリズムや抑揚などを研究し、よりわかりやすいプレゼンの提供を目指した。

また、色々なアイデアを聞くことで活動内容の幅を広げさせた。

募金活動時には街頭での呼びかけの手伝いなど学外での活動にも協力もしていただいた。

ii)歯 SCP

アンケートの集計の際など同級生一人を中心に手助けしてもらった。

iii)看護福祉 SCP、心理 SCP

サポーターはあえてつけずに活動した。

自己評価

薬 SCP

プレーンをつけることで考え方の幅が広がり物事を多角的に見ることができるようになった。様々なプロジェクトに関与できたのも彼らの支えが大きかったと思う。また、薬 SCP は初代、二期からのフォローもあったため活動をよりスムーズに行えたと思う。あとは下級生からの協力を得ることで SCP 後任への引き継ぎをスムーズ化していきたい。

サポーター名簿

学部	氏名
薬	今多 亮介
薬	福村 悠太
薬	寺館 圭祐

資料 3

SCP (Student Campus President) 2011 活動報告

月 日	項 目
14 日(木)	・当別 Brandeli'認証評価委員会へ委員として参加
7 月 26 日(火)	・2011SCP 選挙の実施（歯・看護福祉・心理科学部）
31 日(日)	・東日本大震災募金箱の撤収（義援金総額 82 万 7538 円）
4 日(木)	・当別 Brandeli'認証評価委員会 活動参加
8 月	
9 日(火)	・2011SCP 選挙の実施（薬学部）
3 日(土)	・FD ネットワーク"つばさ"学生 FD 会議参加（於山形大学）
9 月 14 日(水)	・2011SCP 会議（第 1 回）開催 ※以降 2 週に 1 回のペースで実施。
22 日(木)	・2011SCP 任命式 学長より任命状、ブレザーの授与
12 日(水)	・さっぽろ五郎連「全道阿波踊り大会」準備会議への参加
13 日(木)	・あいの里食堂 食堂業者と今後の改善について打ち合わせ
10 月 25 日(火)	・平成 23 年度第 2 回環境保全小委員会 参加
26 日(水)	・あいの里食堂について食堂業者と打ち合わせ ・丸善（当別キャンパス）と意見交換
28 日(金)	・当別 Brandeli'認証評価委員会 活動参加
7 日(月)	・あいの里食堂新メニュー等追加。 ・あいの里キャンパス意見箱設置、ホワイトボード設置
8 日(火)	・大学の財産を活かしたまちづくり推進事業 第 1 回ディスカッション 参加
11 月	
17 日(木)	・大学の財産を活かしたまちづくり推進事業 プレセミナー 参加
18 日(金)	・当別アパート組合「北海道医療大学との懇談会」参加

- 27日(日) · 震災支援団体みちのく会主催イベント 参加
- 11月
30日(水) · 当別住宅情報誌への SCP 便りの掲載文の作成提出
- 9日(金) · 大学の財産を活かしたまちづくり推進事業
第2回ディスカッション 参加
- 12月 19日(月) · 薬物乱用防止キャンペーン FMコメント収録
- 22日(木) · 当別プレシャスネットへの参加
· より良い当別町についてのディスカッション 参加
- 7日(火) · 「東日本大震災支援チャリティー」打ち合わせ (当別町商工会)
- 11日(土) · 学生 FD のイベント「054Time!~学生交流会 in 札幌大学」参加
- 2月
· 「薬物乱用防止キャンペーン」打ち合わせ (薬剤師会館)
- 24日(金)
· 「学生 FD サミット 2012 冬」参加 (追手門学院大学) 上山
- 5日(月) · 「東日本大震災支援チャリティー」企画実施
(3/5~19 物品 回収期間 / イベント開催 4月以降)
- 3月 11日(日) · 「薬物乱用防止キャンペーン」参加 (サッポロファクトリー)
- 16日(金) · 平成 23 年度学位記授与式 参加 (壇上者先導・「贈る言葉」)